

令和3年度 事業所向け 放課後等デイサービス評価表 集計結果

公表日: 令和3年11月1日

リアン稲城

配布:職員 10名

有効回答:職員 10名

事業所番号:

	チェック項目	はい		どちらともいえない		いいえ		無回答		ご意見	工夫している点	改善目標
		人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合			
環境・体制整備	1 利用定員が(子どもの過ごす)指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	9	90%	1	10%	0	0%	0	0%		指定基準40㎡のところ、約59.7㎡の活動スペースを確保しております。活動の部屋と静かな部屋と区別しており、また個別療育室も設置しております。活動内容や利用児の特性に合わせた使い方をしております。	
	2 職員の配置数は適切であるか	6	60%	4	40%	0	0%	0	0%		公認心理士、保育士、幼稚園教諭、作業療法士、児童指導員等の資格者を有し、幅広い視点に立ち療育を行っております。支援員は基準以上配置されております。支援内容や利用児数、また利用児の特性によって職員を配置しております。	認可がでて3年目。まだまだ、仕事を効率化できるようなシステムが出来ておりません。今後は、PCソフト等を導入すると共に、入力が簡素化できるような書式も作成していく予定です。
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか	9	90%	1	10%	0	0%	0	0%		1階でフルフラットのバリアフリーの施設となっております。また、本人にわかりやすい構造、バリアフリー化、情報伝達等に配慮した環境など障害の特性に応じた設備整備に努めております。また低身長の利用児も安心して利用できるような高さの低いトイレも配置しておりますし、手洗いも3段階の高さのものを配置しております。	様々な障害のお子様にご利用になっておりますので、安心安全な施設利用ができるように、お子様や保護者様のご要望に出来る限り応じた設備整備に取り組んでまいりたいと思います。
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか	7	70%	3	30%	0	0%	0	0%		・業務開始前にミーティングを行い意見交換を行っています。・重要事項は、申し送りノートや業務日誌で確認できるようにしています。・個別支援計画やモニタリングを確認しつつ、各個人ファイルにその日のケース記録を記載しており、非常勤職員にも利用児の様子が理解できるように工夫しています。	非常勤職員の勤務日が違うということもあり、全員参加のミーティングがなかなか実施できていないのが現状です。今後は定期的な全体ミーティングを開催し、改善及び実行というサイクルをより充実させていきたいと思います。
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	9	90%	1	10%	0	0%	0	0%		保護者から頂いた評価やご意見は、常勤、非常勤含め全職員に配布し、疑問点は質問するように指導しました。	保護者様からの評価やご意見を謙虚に受け止め、より良い事業所になれるように職員一丸になって取り組んでいきます。
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	8	80%	2	20%	0	0%	0	0%		実施内容は、ホームページにアップしており、その周知も適切に行っています。	今回の評価を振り返り、改善点や不明点を確認し、今後に活かしていきたいと思います。
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	3	30%	5	50%	2	20%	0	0%			第三者評価の実施について本部とともに検討して参ります。
	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	4	40%	6	60%	0	0%	0	0%	・もう少し研修の機会があっても良いかと思います。	年に8回(資料回覧含む)の研修を行っています。また、受身的ではなく、外部研修への積極的な参加を働きかけています。	本部とも相談して、法人全体での研修も取り入れていきたいと思います。
	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、個別支援計画を作成しているか	9	90%	1	10%	0	0%	0	0%		入所時の詳細にわたるアセスメントシートを保護者に依頼し、更に最低6ヶ月に1度の保護者面談、行動観察をチームで行い、その中でニーズや課題を客観的に分析し、個別支援計画に反映させています。	
	10 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	7	70%	2	20%	1	10%	0	0%		標準化された複数のアセスメントツールを基に、事業所独自で集約・変更したものを使用しています。	新しく入った職員にも、アセスメントツールの作成の経緯や、読みとり方を伝え、理解できるようにしていきたいと思います。また、ご家族や職員、関係機関のご意見を聞きながら見直しを重ねながら、より良いものにしていきます。
	11 活動プログラムの立案をチームで行っているか	7	70%	3	30%	0	0%	0	0%		常勤・非常勤ともに、活動内容を考えています。天候や、利用児の状況によっては、臨機応援に活動内容も変更しています。	今後も、チーム支援という視点を大切に活動プログラムの立案に努めていきます。
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	9	90%	1	10%	0	0%	0	0%		感覚統合理論に基づいたプログラムをメインに、動と静のプログラムを織り交ぜております。また、季節感のある創作やイベントを開催。更にお出かけもかなりの頻度で行っております。	職員間でアイデアを出し合うと共に、お子様や、保護者様のリクエストにも出来るだけ応えて、固定化しない魅力的なプログラムを提供していきたいと思います。
										休日や長期休暇中は、普段できない	職員間でアイデアを出し合うと共に、お	

13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか	7	70%	3	30%	0	0%	0	0%	いお出かけや、クッキングなどの体験型の活動を多く取り入れております。また、昼食もあることから、食事の療育にも力を入れております。	子様や、保護者様のリクエストにも出来るだけ応えてまいります。また、休日、長期休暇では、出来るだけ個別支援の時間も取り入れていきたいと思ひます。
14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせることで個別支援計画を作成しているか	9	90%	1	10%	0	0%	0	0%	利用児の状況や特性を考慮して、個別と集団活動を適宜組み合わせることがベストと考えています。アセスメントシートを通じてお子さまの課題、ニーズを明らかにし、個別支援計画を策定しています。その中で、個別活動、集団活動を適切に組み合わせるように配慮しています。	平日は時間が短いこともあり、どうしても集団活動が主となっておりますが、個別支援を少しの時間でも取り入れられるように工夫していきたいと思ひます。
15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	8	80%	2	20%	0	0%	0	0%	支援開始前の打ち合わせを実施し、保護者や学校からの申し送り等も含め、職員へ周知している。出勤時間が合わない職員へは、申し送りノート等で確認できるように工夫しています。	各職員、自分の与えられた役割分だけだけでなく、全体の動きをみて臨機応変な支援が出来るようなスキルアップを目指してまいります。
16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	3	30%	6	60%	1	10%	0	0%	送迎があり支援終了後に全員で十分な時間をもって振り返りを行うことは難しいですが、個別のケース記録や、申し送りノート、支援開始前のミーティングで情報を共有できるように工夫しています。	短い時間を有効活用していますが、それでも時間が不足する場合があります。
17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	9	90%	1	10%	0	0%	0	0%	業務日誌、連絡帳、ケース記録、申し送りノートを毎日欠かさず記入し、支援の検証・改善につなげるようにしています。	連絡帳の記録の時間がかかり、子供への支援を割かれてしまうので、将来的にはより効率的にPCソフトを使った連絡帳に移行できるように検討しております。
18	定期的にモニタリングを行い、個別支援計画の見直しの必要性を判断しているか	9	90%	1	10%	0	0%	0	0%	定期的（6ヶ月以内）には、必ずモニタリングを行っています。、モニタリングシートを基に、保護者との個別面談を行っております。	個別面談時に、サービス管理責任者以外の支援者も同席させ、面接法等も伝えていきたいと思ひます。

	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせる支援を行っているか	9	90%	1	10%	0	0%	0	0%	ガイドラインを基本に、自立支援と日常生活の充実のための活動。創作活動を身体を使った運動等をバランスよく組み合わせを行っています。	全職員がガイドラインを十分に理解して支援できるように、全職員にガイドラインを配布し読み込ませ、不明な点は、管理者が指導していきます。
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	8	80%	2	20%	0	0%	0	0%	必ず児童発達支援管理責任者が参加することとしています。	
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか	10	100%	0	0%	0	0%	0	0%	学校にもよりますが、行事や下校時間、送迎対応、トラブル発生時の事務的なこと以外にも、お子様の様子等密な連携を構築することが出来ています。学校によっては、情報共有は「保護者様とお願いします。」という学校もありますので、保護者様の方にご協力いただいております。	今後も、学校とより良い関係を築いていきます。また、学校での授業参観や行事等にも参加して学校での様子も見に行く機会を作っていきたいと思っております。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか	6	60%	4	40%	0	0%	0	0%	現在、医療ケアの必要な利用児は不在ですが、癲癇発作時の座薬の使い方や対処の仕方など主治医の意見書を頂き、職員に周知しています。	必要な場合は保護者様、主治医等と適切な連絡体制を構築していきます。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか	4	40%	6	60%	0	0%	0	0%	就学前の保育所等でのような支援を受けていたのかの情報は、保護者様を通じて確認しています。また、必要に応じて、いつでも連絡できるように連絡先も確認しています。	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか	7	70%	3	30%	0	0%	0	0%	現在、学校を卒業したお子様はいません。	対象となるお子様が出る時には、移行支援会議を開催（若しくは参加）し、情報提供を行います。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	5	50%	4	40%	1	10%	0	0%	自主的に発達障害者支援センターの研修に参加した支援員はいません。	出来る限り研修の情報を得て、積極的に研修に参加しスキルアップをしていきます。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	3	30%	6	60%	1	10%	0	0%	放課後児童クラブも児童館もコロナの影響で入場制限があったり、時間帯や広さの問題でなかなか相互交流は難しいものがありました。子どものインクルージョンを進めるため、出来るだけ地域の公園遊びを取り入れるようにしております。その中で地域の障害のない子どもも交えた遊びを行うようにして、インクルージョンを進めております。	コロナが落ち着いたら、放課後児童クラブも児童館ともどのような形なら交流が出来るのかを検討していきたいと思っております。
	27	（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか	3	30%	7	70%	0	0%	0	0%	地域自立支援協議会の子ども部会に参加しております。	今後も積極的に参加し、地域の情報の共有を他の支援者にも周知させていきます。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	9	90%	1	10%	0	0%	0	0%	日々の連絡帳や送迎時の情報交換を通して、ご家庭におけるお子様の体調等を把握して支援に臨んでいます。また、随時、電話やメール、面談等で連絡を相互に行いながらお子様の少しの変化にも対応できるように努めております。	今後も、保護者様とは密に連絡を取り合っており、お子様の健やかな成長に向けて、発達状況や課題について共通理解できるように努めてまいります。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか	5	50%	5	50%	0	0%	0	0%	定期的な個別面談、連絡ノート、送迎時等、あらゆる機会を捉えて、保護者様に対してペアレント・トレーニング等の支援を行うよう心がけています。また、必要に応じて、利用児に向き合う時に参考になる本の紹介や、ペアレント・トレーニングの専門機関をご紹介します。	今後も、様々な研修に参加し、スキルアップをはかり、少しでも保護者様のお力添えになれるよう、努めてまいります。
30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	8	80%	2	20%	0	0%	0	0%	見学時や利用開始の契約時には、資料を提供し、丁寧に説明し、十分ご納得して頂いたうえで、利用契約をおこなっております。	今後も、見学時や契約時にわかりやすく丁寧な説明を心がけます。また、変更点などがありましたら、迅速に書面でお知らせいたします。	
											保護者様のご相談には受容と共感	今後も、様々な研修に参加し、スキル

保護者への説明責任等	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	10	100%	0	0%	0	0%	0	0%	をベースに、傾聴し、その都度寄り添えるような支援を心がけ、共に考え、共に悩み、必要に応じてご助言をさせていただいております。	アッパをはかり、少しでも保護者様のお力添えになれるよう、努めてまいります。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	2	20%	6	60%	2	20%	0	0%	現在のところ開催しておりません。	コロナが落ち着きましたら、保護者の皆様のご意見を参考に検討していきたいと思っております。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	10	100%	0	0%	0	0%	0	0%	苦情対応マニュアルに則って対応させていただいております。正確な情報(経過、職員の対応)を調べ、改善策等を行うため、どうしてもある程度の時間がかかってしまいますが、出来るだけ迅速かつ、丁寧で誠意ある対応を心がけております。	利用児も、保護者様にとっても安心してご利用できるように、経過、職員の対応、改善策等も含め、迅速かつ、丁寧で誠意ある対応を行ってまいります。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	10	100%	0	0%	0	0%	0	0%	毎月の活動予定表や、ホームページにて活動の様子などをお知らせしております。また、今年度より送迎予定時間をメールにて配送させていただいております。	ブログの更新の頻度を高めるように努めてまいります。
	35	個人情報に十分注意しているか	10	100%	0	0%	0	0%	0	0%	個人情報の取り扱い・管理については厳重に注意をしております。お子様の写真につきましては、契約時にいただいた「写真撮影及び掲載についての同意書」で承諾いただいた範囲で掲載しております。荷物や書類の入れ間違えがないように、出来るだけWチェックを行っております。	今後も、スタッフ全員でお互いにチェックし合っており、個人情報漏洩にならないように、十分に気を付けたいと思っております。
	36	障害のある子どもや保護者との意思疎通や情報伝達のための配慮をしているか	10	100%	0	0%	0	0%	0	0%	利用児の特性に合わせて、P E C Sや、ジェスチャー等を併用しながらわかりやすい伝達の仕方や、先の見通しや、自分の場所がわかるような構造化を工夫しております。保護者様には、お仕事のご都合等に合わせ、連絡帳や電話、お手紙、メール、ご自宅への訪問など様々な配慮をしております。	今後も継続してまいります。
37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	4	40%	4	40%	2	20%	0	0%	昨年に引き続き、今年度はコロナで自粛しましたが、府中の事業所と合同で夏祭りを開催し、地域の皆様開放しております。	コロナが落ち着きましたら、府中の事業所と合同で夏祭りを開催したいと思っております。	
非常時の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか	10	100%	0	0%	0	0%	0	0%	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルは全て作成しております。コロナ感染症マニュアルも別に作成しました。(閲覧はいつでも可能です)	マニュアルの見直し等、定期的に行い、より充実したマニュアルを作り、保護者様と職員に共有を図っていきます。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	10	100%	0	0%	0	0%	0	0%	地震・火事・水害・不審者等様々な場面を想定して、基本的に月1回の訓練を行っております。(年12回)	今後も継続してまいります。

	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	8	80%	2	20%	0	0%	0	0%		虐待研修を全職員に実施しております。また、虐待防止委員会を発足し、虐待が疑われるような事案がないか定期的にチェックしております。	今後も継続してまいります。
非常時の対応	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、個別支援計画に記載しているか	8	80%	2	20%	0	0%	0	0%		現在のところ、身体拘束を行ったことはありません。身体拘束については、「切迫性」「非代替性」「一時性」の三つの要件を満たし、かつ、それらの要件の確認が複数の職員で確認できた時に、利用児及び、保護者の承諾を得て行うことしております。数名の利用児については、個別支援計画に記載し、保護者様に説明の上、同意を頂いております。	今後も、利用児の心身の状況を丁寧に見ていくとともに、保護者様や関係機関との連携を密にとり、身体拘束に至らないような支援を心がけ、身体拘束ゼロの事業所を継続していきます。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	7	70%	3	30%	0	0%	0	0%		現在、食物アレルギーのある利用児は不在です。	今後も、食物アレルギーのある利用児が通所された場合には、医師の指示書に基づき対応させていただきます。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	9	90%	0	0%	0	0%	0	0%		ヒヤリハットの報告書を作成し、全職員で周知徹底しております。また、法人の常勤会議では、各事業所が出たヒヤリハットの報告を出し合い再発防止に努めております。	今後も継続して、ヒヤリハット場面が減るように努めてまいります。